

令和6年生駒市教育委員会第9回定例会会議録

1 日 時 令和6年9月25日(水) 午前9時30分～午前11時20分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

(1) 報告第14号 令和5年度決算報告について

(2) 議案第26号 生駒市教育委員会事務局職員の任免について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育部長	鋤 田 明 年	生涯学習部長	坂 谷 操
教育部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課長	大 畑 勝 士
幼保こども園課指導主事	長 崎 文	幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美
児童総務課長	武 元 一 真	生涯学習課長	井 川 啓 一 郎
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	松 田 美 奈 子
学校給食センター所長	桐 坂 昇 司	教育指導課課長補佐	中 田 博 久
こども園準備室長	小 林 奈 津 子	図書館館長	西 野 貴 子
図書館南分館長	中 川 公 子	図書館北分館長	谷 江 真 美 子
生駒駅前図書室長	入 井 知 子	スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀
教育総務課(書記)	吉 川 優 香	教育総務課(書記)	寺 川 寧 々

6 傍聴者 0名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

- ・ 通学区域（調整区域）の変更について、山本教育総務課長から説明

<参照：資料1～2>

（質疑）

レイノルズ委員：小瀬町に関して、小学校は変わらず南小の指定区域で、中学校に関してのみ大瀬中学校もしくは生駒南中学校が選べるということか。

山本課長：調整区域としてはそうだが、小学校については隣接校選択制があり小瀬町の壺分小学校に近い人はそちらを利用される。

レイノルズ委員：位置的に壺分小学校の方が便利が良いと判断されれば希望する事が可能であると分かった。10月1日から来年度入学する方の選択肢が増えた事になるが、一般市民の方にどのように情報共有しているのか。

山本課長：来年度以降の指定となるため、12月中の就学前検診に合わせて1月末に就学通知案内を送る際に同封する。併せて11月1日の広報にも載せる予定である。すぐ一、いろどりなどで保護者にも配信していく予定である。10月1日以降で取り扱うため転入も可能である。

レイノルズ委員：小瀬町については小学校と中学校が少し違うというズレがようやく調整区域となり、安全に通える小学校の選択肢が増えたことは良い事だと思う。

飯島委員：レイノルズ委員が言われたように安全面や通学距離を考えて、調整区域から想定される生駒南中、大瀬中は現状とどの程度変わりがあるのか参考までに聞きたい。

山本課長：現状、大瀬中学校の区域の方が生駒南中学校に通えないかという問い合わせが年に10件くらいある。壺分西は自治会長から話を聞く限り10人から20人程変わられる方がいるようなので、それを想定して最低2クラスを確保できるようにしていきたい。

○日程第3 報告第14号 令和5年度決算報告について

- ・ 令和5年度決算について、楢田教育部長、坂谷生涯学習部長から説明

<参照：議案書p1、別冊1>

（質疑）

レイノルズ委員：17ページのICT支援員の配置について、小、中学校月2回の配置とある。これまでは月4回だったが大丈夫か。

花山課長：これまでは1日で1校行っていたが、今年は1日を午前午後と分けて2校行うことになったので、実質中身は変わっていない。

レイノルズ委員：しっかり支援いただいていると理解した。先生方がいかにICTを活用していくかが課題であるので、支援員の方には新しいツールをどう活用していくかをサポートいただきたい。18ページのいきいきほっとルーム、のびのびほっとルームの人数についてだが、継続してたくさんの人にもう1つの居場所として使用していただいている。それは良いが人数が増えてきている。学生ボランティアを活用して強化を図ったとあるが2つの支援室を維持管理し運営する為の支援員、スタッフの人員について問題は無いのか。

花山課長：支援員の数も増やしているので数が足りないということはない。

レイノルズ委員：何人に対して何人の配置をするという目安はあるか。

花山課長：細かく決まりはないが、子どもによっては集団でいれる子もいるし個別対応が必要な子もいるので実情に合わせて配置している。

レイノルズ委員：20ページの遠距離通学児童交通費補助を受けている子どもが生駒北、生駒台小学校にいる。生駒南第二小学校が校区をなくして市内のどこからでも通えるようになったと聞いているが実際そういう方がおられるのか。補助を出している生徒がいないという事は特に補助を受けている人はいないのか。

山本課長：生駒北小学校と生駒台小学校については4キロを超えている方を対象にしている。地域住民の方にこちらから学校を指定している場合のみ補助している。小規模特認校の生徒の通学については、親の責任で学校に通えることを前提にしているので費用の負担は保護者の方をお願いしている。

レイノルズ委員：電車等を利用している子どもはいるのか。

山本課長：校区外の対象者が1人か2人で、親が送って来ているのではないかとと思われる。

レイノルズ委員：28ページの電子図書館の利用についての数字について、タイトル数が1658件と、昨年の資料の2153件から減っている。これは毎年入れ替えもしくは著作権の問題で変わるのか教えてほしい。

西野館長：電子図書館については契約で年に52回まで貸し出し、もしくは2年間のライセンス契約をしている。2年が過ぎると自動的に消えてしまうので減っていくという現象は起こってしまう。予算的にコロナ交付金があった時は国の補助があったので、たくさん買えたが、それ以降は手厚く買うことが出来ず減っていく方向にある。

レイノルズ委員：そうすると、今後も減っていったら見立てであるか。

西野館長：実際のところ減っていくという現象は起こらざるを得ないと思っている。業者の方の工夫もあり読み放題パックというのをリリースしており、これはアクセスが無制限であるので子どもが電子書籍に近づきやすい環境が作られ、1作品、月に1人しか読めなかったものが、電子によって何人でも読める。図書館の方も試行的に朝読で活用できるようなものもリリースし予算の減少をカバーする取組をしているのでご理解いただきたい。

- 飯島委員：電子図書の種類が増えているが紙の書籍の良さも捨て難い。電子書籍の利用数は推移として増えている印象であるか。
- 西野館長：電子図書の利用に関しては特殊な利用だと感じる点がある。1つ目は電子書籍が好きな一定のコアな層が集中的に利用されている。2つ目は電子書籍がどのようなものを閲覧に来られる方が増えてきている。利用者層は30代から50代の方が比較的多く、若い方の利用がほとんどない統計数値になっている。おそらく家事の合間で図書館に行けない女性が、時間帯を選んで読んでおられる。図書館としてもデジタルと紙の媒体を考える講演会を開き、学校司書も紙の大切さや重要性を認めている。利用しやすい方が利用しやすい形で電子書籍を利用していただければと思う。
- 飯島委員：どの予算に対してどれだけの効果があったかある程度見て取ることが出来る。今後の事業評価と決算書を合わせて拝見していきたい。20ページから21ページの小学校、中学校施設情報教育推進事業費として「AIによる個別の習熟度診断・対策を行うウェブアプリケーションの試験的導入等」の言及があるが、これは子ども達の使うAIドリルなのか先生が使う校務の為のソフトウェアを含むのか内訳を知りたい。
- 花山課長：生駒南小中で実証的に行っていた子ども向けAIドリルの「Qubena」である。
- 飯島委員：サブスクリプションのようなものか、それとも買取りのようなものか。
- 花山課長：1年の契約をしているので繰り返し使えるものである。
- 吉尾委員：17ページのあこがれ「いこまびと」講演支援事業の、小学校3校、中学校1校は指定された学校なのか。中学校1校は少なく感じる。加えて、18ページ、スクールカウンセラーの配置について、保護者も含めて3000件以上の相談件数に対してカウンセラーの人は足りているのかと感じた。スクールソーシャルワーカーについても同様に感じた。また、30ページの人権教育推進事業について、人権教育は教育が変わっても基本であり、教育の中核であるため引き継がれていかなければならない。予算をつけて、教職員の人権意識を高めてほしい。
- 花山課長：あこがれ「いこまびと」について、学校のOBや身近な地域の方に来ていただく。学校から市の方に希望の講師の申請がある。例として、アンサンブルや伝統楽器を学ぼうで笙、尺八の体験をしたり、生駒大社の方に来ていただいたり、働くことの意義で、キャリア教育に来てもらった。スクールカウンセラーについては、対象を先生、子ども、保護者と年々時間を増やしているが、増やせば増やすだけ相談がある。人的に足りているかについてはまだまだ必要なところである。
- 中川委員：細かいところまでいろいろな取組をしていただいてありがたい。特に17ページの自校式通級指導の体制作りやSOSの出し方教育など、幼少中、市民の要望に応じてもらったり、限られた予算の中でやりくりしていただ

いている。16ページ市職員による出前授業の実施はお金もかからない。知恵を出して保育所、学校等の学習支援をしていただいている。18ページのスクールカウンセラーについては、入り口は大体保護者から子どもの話になり、ソーシャルスクールワーカーといった形で社会の中でどう支えていくかというところも、教育委員会の広い視野によってつなげていただくのが大事である。そこから親や子どもたちの安定も出てくるので来年につなげていただきたい。図書室についても、司書の方にいつも綺麗にいただいている。学校施設、保育園施設、支援保育所と共に活用できる方法を相談に乗っていただけると、市民の方が納めた税金が活かされていると感じるので、今後ともよろしく願いたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 その他

- ・ 「教職員の夏期研修の実施」について、花山教育指導課長から説明（質疑）

飯島委員：アンケートの中で非常に良いという回答をしている方が多く、充実した講習会を実施していただいた事が分かる。またオンデマンドでも受講できるところが良い。今後も実施していただきたい。感想や意見から、どのような関心をもって参加しているかがよく分かるので意見や質問等共有していただきたい。

吉尾委員：子どもたちが主体的に学ぶ教育は特に中学校では難しいと言う先生方もいる。これからの課題が見えてきている。子ども達の長い人生のためにどうすれば良いかを先生方と共に考えることを大事にしてほしい。熱中症予防は全職員対象であるところが大切である。生駒市英語教育小中連携会議の開催は興味深い。これから小・中一貫教育が進んでいき重要になってくるため、先生方の学びは大きい。小中が、互いの教育内容を知り情報を共有できるのは進歩であり、英語に限らず様々な教育を子ども達が無理なく楽しく受けられることが望ましい。研修によって何を目的に何を学ぶかを大切であると考え。何より研修のビジョンが明確なので、アンケートの内容からも実施した研修の意図が伝わっている感想だと思った。

中川委員：熱中症についての取組を他の市町村に先駆けて大事に扱っていただいている。特別支援教育コーディネーター研修会のように、障がいを持っている子ども達と現学級、通級学級で関わることもあるだろう。子ども達が障がいについての理解を深め、その中で見出したものが勉強につながるので、教育委員会の広い視野での研修を今後も取り組んでいただきたい。

レイノルズ委員：大日向小中はイエナプランを取り入れるなどかなり先進的な教育を実践していて、異学年交流、個別最適及び協働の時間を上手く使い分けられてお

り学ぶことが多かったという意見があった。今までの公教育のやり方とは違う事を実践している現場の先生のお話が聞けたのは刺激になったと思うが、実践につなげていくまでの難しさが意見に反映されている。加賀市立公立学校の方のお話は当日聞けなかったが、実践したい教育を取り組まれている学校だと思う。今からでもオンデマンドのリンクを送っていただきたいくらいである。意見にもあったように、オンデマンド、オンラインで参加できる選択肢が増えている事が素晴らしいと思った。ただせっかく遠方から講師に来ていただいているので、職員はもっと現地で参加すべきではないかという意見がある。いかに先生方に情報を事前共有し参加していただきやすい仕組みにするかにつなげてほしい。先進的な教育をすぐに実践していくのは難しいが、このようなやり方がある事に気づききっかけが増えることが一番大事なので、この機会を来年に向けて増やしていただきたい。英語教育に関して、講師の方が来られたのではなく、小中学校の先生方が交流されたのか。

花山課長：加賀市から現場の10名ほどの先生方に来ていただき、教育大綱にある形で進めている。子どもたちに委ねる時間を増やしていこうとしている。具体的なところを説明していただきその後グループに分かれて質問する時間を取った。英語教育については県の義務教育課の、斑鳩小学校英語専科の島田先生に来ていただき目的場面を意識した授業、場面設定が大事でありそれをどの様に使っていくかという話をされた。その後中学校区で小・中の先生同士で交流があり、その取組について共有し2月に学校に報告する機会をもった。

レイノルズ委員：目的意識を持った英語学習が効果につながった。1対1のコミュニケーションとして相手にどういう印象を持ってもらいたいのか関係を強めたいと思っているのかが本当の英語というコミュニケーションツールなので教科書を越えて先生として気づいたのは素晴らしい事である。小・中の先生方の交流で考えていただく機会になったという意見もある。学校区が近いところで振り返りの回数を増やしていくことで充実した英語学習になると思うので引き続きよろしく願いしたい。

吉尾委員：教育研修会で令和6年度策定の教育大綱の周知は保護者に対してしているのか。

花山課長：今のところ、保護者が参加できる場所は教育フォーラムと熱中症予防対策研修会がある。今後検討していきたい。

原井教育長：教育大綱のリーフレットは全保護者に配布した。いろいろな場面で生駒市の教育の考え方を周知していきたい。

- ・ 「(仮称)認定こども園壱分こども園整備運営事業者(公私連携法人)選定に係る公募型プロポーザルの審査結果」について、小林こども園準備室長から説明

(質疑)

吉尾委員：地元の方は心配もたくさんあるだろう。説明は丁寧にしっかりしていただきたい。壱分幼稚園の公立幼稚園としての教育内容や実態は、しっかりと伝えてほしい。何度も足を運んで実際に現場を見てもらうことが望ましいと思われる。園側もどういう法人でどういう教育方針なのかしっかり勉強をしてほしい。生駒市の教育委員会もサポートしていただけたら有難い。実際に話を聞く、現場を見る事が大事だと思う。

・ 「生駒南小学校・生駒南中学校整備事業」について、山本教育指導課長から説明
(質疑)

レイノルズ委員：8月5日に中学校生徒会交流会が開催されたとあるが、どういった内容だったのか。児童生徒の意見を聞いてみたい。

原井教育長：全中学校の生徒会の代表が集まって毎年この時期に行っている。生駒生駒南小中に特化したことではなくICTを使った授業がどのようなもので、どんな学びをしていきたいかという事を子ども目線で意見を出してもらったと報告を受けている。

花山課長：昨年度の生徒会交流会でこれからどんな学校がいいか、授業を受けたいかというのを話し合った。今年はICTについての内容であった。

飯島委員：学校運営協議会は小中学校それぞれあるが、10月24日は合同で行われるのか。

山本課長：生駒生駒南小中は学校運営協議会を合同で行っている。今までの進捗状況を説明する意義があるので、10月24日に行う予定をしている。

吉尾委員：庁内プロジェクトチームについてのメンバーの構成について教えていただきたい。

鍬田部長：建設関連、都市計画関連、教育委員会部局、防災等、建築を進めていく中で必要になっていくところで構成している。

中川委員：教職員プロジェクトチームの構成はどのような組織か。

山本課長：生駒生駒南小中に勤めている方だけでなく、市内全域の先生の中で第3次教育大綱を踏まえた上で教育施設を作るモデルとなる学校を目指しているので、市内全域で意欲を持っている方を募集してこのプロジェクトに当たっていただく。

飯島委員：生駒生駒南小中だけでなく、生駒市の学校として何が実現できるかと可能性を探るような動きを始めていると感じた。自治体の事情によってはあまりメリットを感じられない一貫校もある。生駒北小中は校舎を一体にして先生の交流がある一貫校もある。王寺の義務教育学校の視察をさせていただいて、王寺南は義務教育学校の校舎の敷地が別で4年生が最高学年で、王寺北は全ての学年が一体の活動になっている。英語が教科となって、小学校では中学校の先生に指導してもらおうのが良いのではないかと、働き

方改革のため教科担任制が良いのではないかと議論がある。校舎一体型小中一貫校では今まで出来なかった何ができるのかをしっかりと見極めてほしい。今の時期であるからこそ、小中一体として運営する事、義務教育学校として運営するメリットを十分検討する必要がある。新しいものに対する抵抗感はあるだろう。しかし良いところを積極的に取り入れていくためにも調査・研究して、先進的な学校にも新たな視点で見学に行って生駒南小中学校を良い学校に作っていく手掛かりを得られるように検証の機会を設けて検討し取組の中に含めていただきたい。

原井教育長：義務教育学校という選択肢は地域や保護者の方からも意見があった。昨年度は基本構想を策定したが、学校作りという大きな枠組みを考えて、これからは校舎をどうするか、小、中学校なのか義務教育学校が良いのかを選択し基本計画を完成しなければならない。

吉尾委員：様々なことが決定し進むまでに、議論する必要があるのではないかと。多くの意見を出し深めていく事が子どもたちの学びにつながっていくので、地域の方も巻き込みながら子ども達が育っていく事を基本に考えると、いろいろなやり方があるだろう。その結果良い考えが見つかれば一番である。

レイノルズ委員：義務教育学校がどのようなものかあまり知る機会が無い。必ずしもこうでなければならないということではない。施設一体型小中一貫校という取組を進めているところも他にある。複数校視察できる機会があれば良いと思っている。

中川委員：近くの義務教育学校を拝見させてもらった。先生方や地元の方にも聞いてみると、いろいろな課題が出ている。他校の実践、地域の方の考えを取り入れて一番良いものを生駒南小中でできればと思う。

原井教育長：そもそも義務教育学校と小、中学校の違いは何なのか、メリット、デメリットはどういうところなのか、ということを知る事から学んでいかなければいけない。保護者や先生方と共に学んでいきたい。事務局として研修の機会を設けてもらえるのか。

鎌田部長：地域にとって最良の選択をし、良いものを届けたいので研修等も検討していきたい。

原井教育長：生駒北小中の時は義務教育学校という存在が無く、現在に至っている。総合教育会議を活用し学ぶ機会としたい。新しい学校作りをしていく意欲のある教員のプロジェクトチームが大阪の学校の施設見学に行く際、事務局も参加させてもらい学んでいるので、今後もそのように進めていきたい。

- ・ 令和6年10月行事予定について、山本教育総務課長、井川生涯学習課長から説明（質疑）

中川委員：8日のふるさとミュージアム秋季企画展は何時からはじまるのか。

井川 課長：開館時間の9：30からである。

○追加日程 議案第26号 生駒市教育委員会事務局職員等の任免について

・ 生駒市教育委員会事務局職員等の任免について、楯田教育部長から説明

<参照：議案書、追加資料（非公開）>

≪ 個人情報を含むため、質疑内容は非公開 ≫

審議結果 【原案のとおり可決】

○閉会宣告

午前11時20分 閉会